

2021年度 海と日本プロジェクト CHANGE FOR THE BLUE  
山形県陸域部における散乱ごみのモニタリング体制の構築と削減対策の検討  
2年次事業報告書【概要】

## 1. 目的

第2次山形県海岸漂着物対策推進地域計画(計画年度;2021年度から10年間)に基づく陸域部における発生抑制対策の一環として、散乱ごみのモニタリング体制の構築及び削減対策を県内全域で展開し、海洋プラスチックごみ問題の改善を図る。

## 2. 実施内容

2022年度は、2021年度の成果を踏まえて、赤川流域の支流である内川の河川敷(鶴岡市海老島町)におけるごみのポイ捨て行為の削減対策を環境心理学の知見をもとに試行した。当該地区は、2021年度の実態把握調査においてポイ捨てごみのいわゆるホットスポットの一つと推察され、地元自治会の協力が得られ、モニタリングの実施が比較的容易であるなど、対策の試行に適している。

## 3. 実施方法

環境心理学の学識経験者と共同し、仮設のごみ箱とベンチの設置という「介入」を行い、当該地区の河川敷において投棄されたごみの種類、個数、日付情報などについて、①介入前のベースライン、②ごみ箱及びベンチの設置、③ごみ箱撤去(ベンチのみ設置)、④ベンチ撤去(介入解除後調査)のそれぞれ1ヵ月間のモニタリングを実施した。

## 4. 実施結果

- (1) 仮設のごみ箱及びベンチの設置  
 当該地区の内川上流端側の空地に、ごみ箱及びベンチを設置した。  
 (写真1)



- (2) ごみ箱への投入ごみの種類と数  
 ごみ箱に投入されたごみの種類と数を表1にまとめた。概ね10日毎に投入されたごみを回収し、新しいごみ袋を設置した。

表1.ごみ箱への投入ごみの種類と数

	9月20日まで	9月30日まで	10月9日まで
ペットボトル(2000ml)	0	0	0
ペットボトル(500ml)	4	1	1
ペットボトル(300mlサイズ)	0	0	1
カップ型飲料	2	0	0
食品の包装容器プラスチック	8	5	0
まとめごみ	0	6	2
紙類(新聞紙、ティッシュなど)	2	2	0
紙類(タバコパッケージ)	1	0	0
包装プラ	9	0	0
その他	6	4	1
計	32	18	5

- (3) 河川敷におけるごみの変化

河川敷のごみ総数について、今回の介入対策の結果を2021年度調査と比較し図1にまとめた。また、ペットボトルの変化について図2にまとめた。

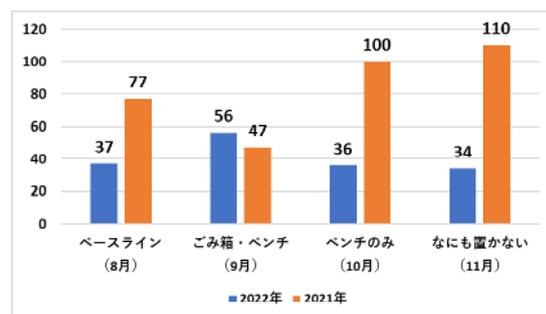


図1.河川敷におけるごみの変化

## 5. 調査結果からの考察

- ・ごみ箱への投入ごみが一定量あり、河川敷へのごみの投棄をごみ箱へ誘導できた効果はあった。とくに、昨年度の調査で確認されていた、児童・生徒が好む菓子等商品の包装プラスチックごみのごみ箱へ誘導されており、ごみ箱及びベンチの設置以降は河川敷では確認されていない。
- ・実施した介入のうち、ごみ箱を撤去した後のポイ捨て数が減少したことから、地域の方々が困っていることやごみを捨てることへの必要性が問われるような表示を掲示した設置期間限定のごみ箱がなくなったことで、ポイ捨てしないことの重要性を学んだ行為者もいるものと推察される
- ・前年度の調査から食品の包装容器が増えるであろう10月、11月については、減少傾向が見られる
- ・郊外で購入されたお惣菜のまとめごみが一定数あることから、とくに夜間について車で移動している人を対象にした対策が必要である ⇒3年次(2023年度)の調査テーマに

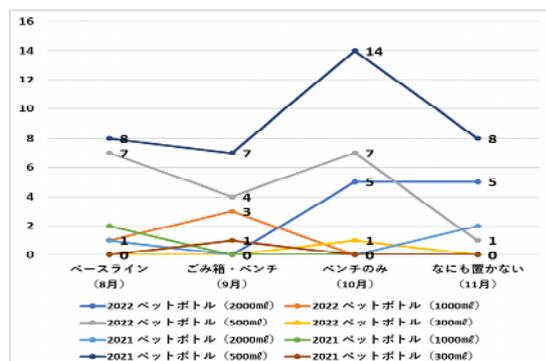


図2.ペットボトルの変化